

Conventional IVFを行った症例における精子運動解析装置（CASA ; computer-aided sperm analysis）を用いた受精率の検討

本学で実施しております以下の研究についてお知らせいたします。
本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。
また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究課題名	Conventional IVFを行った症例における精子運動解析装置（CASA ; computer-aided sperm analysis）を用いた受精率の検討
倫理審査 受付番号	第3907号
研究期間	2021年11月許可日～2024年3月31日
研究対象情報の 取得期間	下記の期間に、産科婦人科を受診された、女性不妊症の方 2018年 7月 1日～2021年 9月30日
研究に用いる 試料・情報	試料等、カルテ情報

研究概要

（研究目的、意義）

日本産婦人科学会の会告にて、精子を直接卵子内に注入する方法つまり顕微授精の適応は難治性の受精障害で、これ以外の治療により妊娠の可能性がないか極めて低いと判断される夫婦のみを対象としています。しかし、実際の臨床においては、受精卵を得られないことを避けるために最初から顕微授精を選択することも多く、その適応は各施設の判断で実施されているのが現状です。

体外受精の方法を決める上で、精液所見は重要な因子ですが、明らかな基準値は設けられておらず、再評価する必要があります。従来より精液所見の評価方法として目視による測定が行なわれていますが、目視法は主観的であり測定者によりばらつきが生じる可能性があります。そこで、より客観的に精子を評価する方法として、精子運動解析装置（CASA ; computer-aided sperm analysis）を用いた評価が試みられています。CASAを用いた計測は測定者間のばらつきが少なく、目視では計測できない速度や運動性に関する詳細なパラメータまで測定可能です。CASAを用いて、精子運動パラメータとconventional IVF(一般的な体外受精：卵子に精子を振りかけて受精させる方法)における受精率との相関について検討することで、精液評価にCASAを用いることの有用性を検討することを目的とします。また、conventional IVFを選択する際の指標となる運動パラメータを明確にすることを意義とし、本研究を計画しました。

（研究の方法）

体外受精のインフォームドコンセントを得て、当院で2018年7月1日から2021年9月30日までにconventional IVF（卵子に精子を振りかけて受精させる方法）を行った患者さん夫婦を対象とします。

精液は、2～7日間の禁欲期間として全例用手法で採取し、精子を回収しました。CASAによる精液検査は洗浄前とswim upによる調整後の両方で行い、精子運動の解析を行います。

本研究は後方視的研究であり、上記について体外受精の適応、卵巣刺激方法、採卵個数、胚盤胞個数、媒精方法など診療録を用いて、Swim up前後の各精子運動パラメータ(精子濃度、精子運動率、運動精子濃度、頭部振幅、頭部振動数、曲線速度、直線速度、平均速度、直進性、直線性)と正常受精率をExcelファイルに入力します。本研究はこの情報を利用する観察研究で、入力した情報を集計し、解析します。

（個人情報の取り扱い）

収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した（匿名化といいます）上で、統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

本研究に関する 連絡先

兵庫医科大学病院 産科婦人科
教授 柴原 浩章（研究責任者）
病院助手 岡村 直哉（研究担当者）

TEL | （平日 8 : 30 ~ 16 : 45、土曜日〔第1・3〕 8:30 ~ 12:30） 0798-45-6481
（上記時間以外） 0798-45-6111（代表）
